



ゴミへらし隊「エコレンジャー」

やっさ祭り ゴミ減量への取り組み

下西 勝彦 議員

問：やっさ祭りの「ゴミへらし隊」にボランティアとして3日間参加した。出てくる簡易容器の種類の多さに驚いた。

全ての出店の容器を5～6種類に集約すればと考え、これを、市認定の容器として出店者に売り、客は決められた回収センターへ持参して容器代を受け取る。この容器のデポジット制度を、「三原方式」として取り組んではどうか。

答：やっさ祭り実行委員会ではゴミゼロ・クリーンな祭りをめざし、平成16年にゴミへらし隊「エコレンジャー委員会」を設立し、様々な活動をしている。

マイ箸・リユースカップ・エコマネーなどの導入、ゴミ分別ボックスの設置など積極的に取り組んでいる。

「三原方式・容器のデポジット制」は画期的な提言だが、出店者の理解と協力が大きな課題と考えている。

エコ運動の促進を

小西 真人 議員

問：市民一人ひとりが、日常生活から温室効果ガス排出削減に向けて、意識を高め実行しなくてはいけない時代である。

エコドライブの普及促進にはアイドリングストップが大事であり、信号待ち・交通渋滞時の実行も必要だと考える。啓発用ステッカーを貼り、普及活用すべきと思うがどうか。

また家庭の使用済み食用油のリサイクルにどう取り組むのか。

答：三原市役所地球温暖化対策実行計画において、公用車使用燃料削減の項には、駐停車時のアイドリングストップの徹底は記述している。今後は、信号待ちや交通渋滞時・踏み切り待ち等についても、職員に周知徹底を図りたい。市民啓発のためにもステッカーの作成を、前向きに検討していく。

使用済み天ぷら油を精製した

「バイオディーゼル燃料」は、新エネルギーとして有効活用されており、本市も今後「集団回収助成制度」導入や、効果的な回収方法、保管場所等の課題を研究していきたい。

三原城跡の周辺整備は

小西 真人 議員

問：城跡の周辺整備事業が本格的に動き始めた。しかし完成までには、なお時間がかかる。この間、城跡を活用するため、ライトアップをすべきと思うがどうか。

また北側用地の臨時的な活用もしていくべきであるが、どう考えているか。

さらに、桜山城跡の整備も一体的に取り組む必要があると思うが、どのような見通しか。

答：天主台石垣のライトアップは親しまれる史跡の活用、観光振興の両面において、大変有効であると考えている。整備計画の中で検討するとともに、当面やっさ祭り等においても臨時的取り組みが可能か、関係部署と協議したい。

堀北側の用地の臨時的活用については、従来通り神門市などに、可能な限り提供する。桜山城跡の整備は、文化庁・県教委の指導により、現在進めている周辺整備事業を優先して完結させ、完了後の平成23年以降、検討していきたい。